

絵入本ワークショップVIの開催にあたって

絵入本学会 代表

同朋大学文学部教授

服部 仁

「絵入本」のワークショップというものを、実践女子大学の佐藤悟教授たちが始められたのは、恐らく今から一〇数年前のことであったように記憶しております。私は、第一回の仙台の大会には参加しておりませんが、参加できなかったことが残念であり、羨ましかった覚えがございます。

その後、二〇〇六年に、渋谷の実践女子大学で「絵入本のワークショップ」を開催した後で、皆で会食をしながら自己紹介をいたしました時に、私が、『八犬伝』の浮世絵の展覧会をしてみたいものです』と発言いたしましたところ、たまたま隣りに座り合わせておられた現大和文華館館長・あべのハルカス美術館館長、当時は千葉市美術館学芸課長であられた浅野秀剛先生が、「やってみましょうか」とおっしゃったのです。

これが、二〇〇八年に愛媛県立美術館と千葉市美術館で開催した「八犬伝の世界」展の始まりであったのです。ただし、浅野先生は、二〇〇八年四月に大和文華館に転出してしまわれたので、後の実務を托された千葉市美術館の田

辺昌子さんの御苦労は並大抵のものではございませんでして、獅子奮迅のご活躍でした。未だに田辺さんには感謝し尽くせない感謝をいたしております。

私事のことには筆を費やしてしまいましたが、「絵入本学会」と名称をあらためたこの会で、今回も、時代、題材、画家、それぞれ多岐にわたった研究が発表されることと、大きな期待を抱いております。

絵入本ワークショップのことども

実践女子大学教授 佐藤 悟

絵入本ワークショップが絵入本学会と名称を変更したのは関西大学における絵入本ワークショップⅤからでした。第一回目のワークショップが開催されたのは二〇〇四年七月ですから、ほぼ一〇年が経過したことになります。一九九九年四月から中谷伸生さんとはほぼ一年間、週に二度食事を共にする機会を大英博物館で得ることができました。国文学と美術史学に関わる話を延々としていたのが懐かしく思われます。中谷さんは日本近世美術史がご専門で、大

阪画壇の研究者です。私は江戸を中心とした日本近世文学が専門です。学問は周辺領域が重要であり、二つの学問が結びついた時に新しい可能性が出てくる。これは日本文学や日本美術に限定される問題ではないということで意見の一致を見ました。この時のアイデアが絵入本ワークショップの出発点となりました。数年後、実践女子大学文芸資料研究所の所長をしていた渡辺守邦さんに唆されて絵入本で申請した科学研究費補助金が認められました。文芸資料研究所の後援もあって、第一回の絵入本ワークショップが仙台市博物館で開催されました。その時は発表者は合宿という形をとるのが良いという考えで、仙台ガーデンパレスの空いている部屋をほぼ全部押さえ、参加者が朝から寝るまで絵入本、その他について話し合ったのが昨日のように思い出されます。新しいアイデアの提案、新しい出会いがたくさんありました。これがその後の絵入本ワークショップを支える基礎となりました。

絵入本ワークショップという名前を付けましたのは、研究発表はそれぞれの学会で行えばいいという思いと、手探りで何か新しいものを求めるという気持ちがあったことによります。第一回目からすばらしい発表や試みが続き、絵入本学会という形で新たに発足することになったのはご存知の通りです。しかし手探りで何か面白いことをやってみるという精神が失われたわけではありません。学会という名称に気おされて、精神が委縮しないことを望みます。

私事で恐縮ですが、今年還暦を迎えます。あと一〇年ぐらいいはこの学会を支えることは出来るかもしれませんが、世代交代をそろそろ考えなければなりません。「事業の進歩発展に最も害するものは、青年の過失ではなくして、浪人の跋扈である」という伊庭貞剛の言葉が思い起こされます。学会を支える若い人たちが登場することを希っています。

絵入本学会役員

■運営委員

- 服部仁（代表、同朋大学文学部教授）
クリストフ・マルケ（フランス国立東洋言語文化研究院教授）
河野龍也（実践女子大学准教授）
河合眞澄（大阪府立大学）
佐藤 悟（実践女子大学教授）
田中 登（関西大学教授）
中谷伸生（関西大学教授）
山本 卓（関西大学教授）
山本登朗（関西大学教授）
横井 孝（実践女子大学教授）
ロバート・キャンベル（東京大学教授）

■編集委員

- クリストフ・マルケ
服部 仁
山田和人（同志社大学教授）
山本 卓
横井 孝

絵入本ワークショップVIプログラム

期間 平成二五年七月五日（土） 六日（日） 七日（月）

研究発表会場 同朋大学博物館二階大会議室

研究踏査 愛知県南多町 岩屋寺・光明寺

七月五日（土）

■開会の辞

同朋大学 服部仁

■研究発表

シーボルトが持ち帰った「大坂 絵入折手本」をめぐって

下関短期大学 高杉志緒

「張良吹簫図」考―北斎「張良図」の補説―

金城学院大学 張小鋼

役者評判記の挿絵―上演実態の反映―

大阪府立大学 河合眞澄

七月六日（日）

■研究発表

山東京伝『籠釣瓶丹前八橋』における〈絵馬の怪異〉

大阪大学（院） 有澤知世

種彦合巻『鯨帯博多合三国』の考証趣味―本文と挿絵の利用をめぐって―

東京大学（院） 金美眞

一英齋芳艶「文治三年奥州高館合戦白衣川白竜昇天」図考―『八犬伝』との関連―

愛知県立大学 三宅宏幸

「とるかに合戦」絵本の変遷―江戸から昭和までの五十点―

愛知大学(名) 沢井耐三

■昼食

■研究発表

画集から見た青木繁

関西大学(非) 高橋沙希

〈デザイン〉の黎明期―明治・大正の挿絵と美術

実践女子大学 河野龍也

尾張の人、梅樹軒逸人の俳書出版―絵俳書を中心として―

名古屋外国語大学(非) 服部直子

愛知県南知多町に残された元禄期江戸吉原に関する一次資料

慶應義塾大学 日比谷孟俊

名古屋学院大学 山本親

同朋大学 服部仁

実践女子大学 佐藤悟

関西大学 山本登朗

■閉会の辞

七月七日(月)

研究踏査 愛知県南知多町 岩屋寺・光明寺